KSKQ 第三種郵便物認可ＫＳＫＱ（サロン・あべの）通巻１７７１号１９９７年　1月28日

出会い　ふれあい　助け合い

# サロンあべの

Vol. 123

## あべのカーニバル さろん亭

**サロン・あべの8月の出会い**

96年8月4日（日）、第23回あべのカーニバルが開催されました。会場は、例年のとおり阿倍野区役所と工芸高校グラウンドでした。

そのグラウンドの一角にある「なんでも市どおり」に、今年も「サロン・あべの」のバザー店『さろん亭』がオープンしました。

毎年のことですが、皆様から寄贈していただいた物品への値付けには苦労をします。値段を高くすると売れないし、あまりに安くするのも寄贈していただいた方々に失礼だし…。悩みながらもカーニバルの前日に値付け作業を終了。

当日は、午後1時頃から開店の準備を始めました。販売開始は3時からでしたが、6時の閉店まで、本当に暑い中、販売のお手伝いしていただいた方々に感謝をしています。もちろん、商品を買っていただいたお客様にも感謝しております。

多くの方々の支援で成り立っている「サロン・あべの」を実感する夏の行事、『さろん亭』は、今年も大成功でした。

一九九一年九月三日第三種郵便物認可（毎日発行）

## 笑顔いっぱいのさろん亭

井　上　礼　子

連日の真夏日。八月四日、あべのカーニバルの日も朝からカンカン照りでした。

会場の工芸高校グランドで行われているリズム体操の演技を横目に見ながら、足早に「さろん亭」に向かいました。なんでも市通りは、大勢の人たちでごった返しています。

私たち朗読ボランティアの仲間もお手伝いさせていただきました。品定めをするお客様も真剣ですが、販売する私たちもつい声高になってきます。テント内に高く積まれていた品物の山は、どんどん小さくなっていきます。やがて、閉店直前になると、値引きを待ち構えていた人との最後の掛引にも、ますます熱が入り、バザーを存分に楽しませていただきました。わずかな時間でしたが、サロンの皆様と共に活動する機会を与えて下さり、ありがとうございました。

音訳がご縁でボランティア・ビューローで、冨田さんと出会いました。あれから約十ヵ月ふれあうたびに冨田さんの「言葉」に勇気づけられ、「笑顔」に助けられて、未熟ながらも、楽しく活動させていただいております。どうか今後ともよろしくお願いします。

勿論、あの日のさろん亭も笑顔がいっぱいでした。

アベノ朗読ボランティアグループ代表

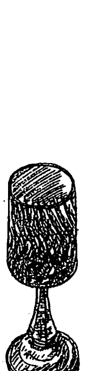
## ハサミも使いよう

「さろん亭」での販売に必要な備品は全部揃っている、不足なものはなにもない。過去十回して来て誰しもそう思って、考えようともしませんでした。が、今年すごいのが現れました。三種の神器が世に出たときと同じくらいの…、ちょっとオーバーかな――すぐれものが登場したのです。洗濯バサミ、物干しロープ、回転物干し、Ｓ字器具である。

なんの変哲もないこの洗濯グッズを販売の小道具に使うアイデアがアベノ朗読ボランティアのヤングミセス（そうでない方はそれなりに）の方から出されたのです。今年のニューパワー、やわらか頭のお陰です。昨年まで四苦八苦していた小物類の販売がスムーズに行き、例年にない新しい売れ筋が出て、売り上げに大きく貢献したのはいうまでもありません。

ハサミの上手な使い方、どうもありがとうございました。

（Ｘ）



## 感謝

カンパ、お茶菓子、写真、冊子、バザー用の品等のご寄贈。一筆箋、絵葉書、十周年記念誌、エッセー集等、お買い上げありがとうございました。また、さろん亭開店におきましては、販売や搬送にご協力いただきありがとうございました。

お礼を申し上げます。

アベノ朗読ボランティアグループ、
あしやどんぐり、赤松菊間、秋本美智子、
安達尚子、葦刈逸子、阿倍野区肢体障害者協会自動車部（長谷　繁・吉田　毅）、
穴吹辰夫、石田　律、石田花子、

伊勢村和子、稲川絢子、井上きみ子、
上平幸雄、大高澄子、大谷美津子、
岡　賀寿子、岡　知史、奥田久子、
奥田陽子、岡本登志子、柿岡　緑、
加賀谷　正、川田　誠、窪田新一、
岸　鏡子、岸野さなゑ、蔵田　均、
黒羽玲子、小泉田恵子、阪口悦子、
阪田富子、目　和子、下村真樹、秀　翠、

## おもろい　姉ちゃん

### 口喧嘩

やってしまいました。とうとう、担当の高校生と大喧嘩（私の気持ちの上で）。

きっかけは些細なこと。

私の落としたペンをA君が取り込んでたのを私が取り返したところ、機嫌の悪かったA君がへ理屈こねて逆襲に出てきただけ。

しかし、そのしつこさにたまりかねて

「もうええ判った。好きにしい、もう顔見てるだけで腹立ってきた。仕事するから事務所出て」

といってしまったんです。

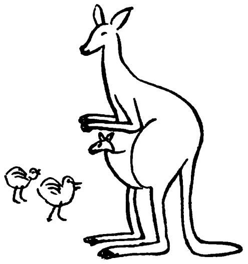
その夜には言い過ぎたと後悔の嵐。

翌朝、私の机の引き出しに彼が持ってたはずの私のペンが。

いい奴やと思ってこちらから歩み寄ったところ、実は気を使った職員の仕業。それでもお互いに文句言いながら仲直り。

なんか、自分と母親との口喧嘩を少し思い出しました。

田渕　美登利



須賀順子　杉山葛江　善甫道子、
大丸美智子、高尾澄男、竹中千代子、
竹村定子、田中喜久江、田中マサエ、
田中康弘、手島八重子、出口正敏、
土井一典、冨田万里子、冨田慶子・十一・実幸・御喜代、永井美智子、中谷敏昭、
中西利香、中原友喜、中村久子、
南光仁子、難波りんご、西　和子、
萩原洋美、長谷川フユエ、林　三起子、
原田　仁、福島栄子、藤井さゆり、
町野旬子、松田峰子、丸山寿美子、
森　芳江、水谷淑子、水戸ハル子、
宮本泰子、八木千尋、柳生幸子、
山口豊子、山口まゆみ、山田絹代、
山梨徳治、山野荘一、山本篤江、
山本敏子、和田保子、山本康子、
吉原和郎、その他多数の方々

＊　＊　＊

八月四日の「さろん亭」売り上げ金は、左記の通りになりました。多くの皆様方のご協力に厚く感謝申し上げます。

ありがとうございました。

さろん亭売上げ金一二〇、三六〇円

＜サロン・あべの＞運営委員会

第三種郵便物認可ＫＳＫＱ（サロン・あべの）通巻１７７１号１９９７年　１月２８日

# 作る　つくる　創る

河合恵子

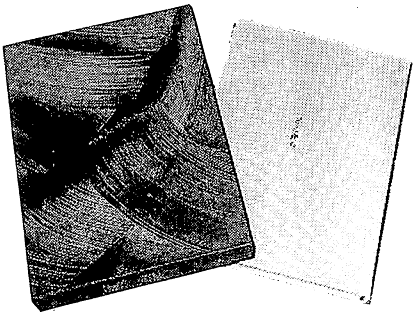
37

あなたのイーハトブは？

「イーハトブは地名である。（中略）実はこれは著者の心象中に、この様な状景をもって実在したドリームランドとしての日本岩手県である。そこではあらゆることが可能である。人は一瞬にして氷雲の上に飛躍し大循環の風を従えて北に旅することもあれば、赤い花杯の下を行く蟻と語ることもできる」

これは宮沢賢治自身が書いたと言われている「注文の多い料理店」の広告文の書き出し。

今年は宮沢賢治の生誕百年に当たり、テレビや映画でその作品や人柄が様々な角度から取り上げられていますが、皆様は宮沢賢治の作品と　どのように出会われましたか？「銀河鉄道の夜」や「雨ニモマケズ」ですか？それとも妹と死を悼んだ「永訣の朝」でしょうか？　私は教科書のほか、井上有一という書家の書いた「よだかの星」の迫力ある字に魅かれます。また最近は、醍醐イサムさんという洋画家の展覧会で彼が装丁をてがけた「どこから―宮沢賢治という風」と題する一冊の私家本に巡り会いました。そのなかに賢治にとって「さびしいこと、悲しいこと、それは生と死を越えた果てしない時間のなかにつつまれてこそ溶けて消えるのだ。そしてまた、ほんとうのこと、ほんとうによいこと、いちばんに幸福なこと、それもおなじように生と死を越えた果てしない時間の推移のなかでこそ決められるのだ」という言葉を見つけました。生徒諸君に寄せるという詩のなかで「新らしい風のように爽やかな星雲のように　透明に愉快な明日は来る　諸君よ紺いろをした北上山地のある稜は　速やかにその形を変じよう　野原の草は俄かに丈を倍加しよう　あらたな樹木や花の群落が・・・」とうたった賢治は一九三三年、その生涯を終えました。九月二一日は賢治忌です。



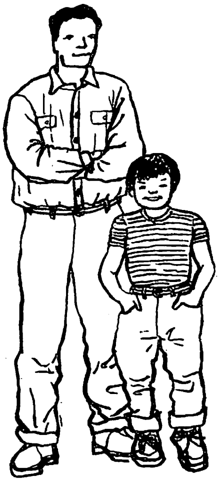
# ★人生の時間の算数

「ゾウの時間・ネズミの時間」（中央公論社）という本がある。それによると生物は体重が増えると、その身体（からだ）に流れる時間は遅くなるそうだ。それは人間がオトナになるまでの場合にもあてはまる。身体に流れる時間が遅いと、身体の外にある時計の時間は逆に早く感じる。いいかえれば、幼いときの時間は密度が濃く、こってりとしていて、年をとってからの時間は薄く、あっさりとしたものらしい。

実際、思いかえすと、子どものころの一日はずいぶんと長かった。朝がきてから、いろいろと遊んで、夕陽をようやく迎えたころにはすっかり疲れていた。子どもは、短い時間にたくさんのことを経験する。だから一日が長く感じるのだろう。

幼いころを過ぎても、その傾向はつづいた。学生時代、帰省列車のなかの四時間がたまらなく長かった。どうやって、その時間をすごそうかと真剣に悩んだものだ。しかし、いまは五時間の帰省列車も、さほど退屈しない。ボーッとして窓を見ていれば、なんなく時間は流れてしまう。それだけ、私の時間は希薄になってきたのだろう。

老年期の癌は、ゆっくりしていて、なかなか大きくならないそうだが、それも老年になると身体の時間が遅くなるからだろう。気がつけば夢中になって朝まで本を読んでいたという老先生の話を聞き、私は「すごい集中力だ」と感心していたが、この考え方からすれば、ただ単に年をとれば時間の感覚が変わり、一日が短く感じるからこそ、朝まで本を読んでいたのかもしれない。



若い人の物覚えが速いのは、若いころの時間の密度が濃いために、短い時間でたくさんのことを覚えられるのである。年をとれば、時間は希薄になり、長い時間をかけてようやく若い人と同じくらいの時間を体験できる。記憶力が変わったのではなく、身体に流れる時間の密度が変わったと思えばいい。

そう考えれば、人間の平均寿命が八十年としても、人生の半ばは四十歳ではない。機械の時計では八十年の半ばは四十年だが、生きている私たちには時間は少しずつ希薄になるのだから、人生の半ばは、たぶんもっと早い。二十歳（ハタチ）ぐらいで人間の身体の成長が終わるのなら、人生の半ばも、きっとそのころだと思う。

もしも二十歳が人生の半ばなら、八十歳の寿命から考えて、八十から二十をひいて六十。六十は二十の三倍だか

ら、人生の後半は前半よりも三倍長い。ということは、単純にいえば、時間が三倍、薄いということだ。子どもの一日はオトナの三日にあたるくらい重いのだろう。

だとすれば、オトナが子どものために自分の時間を、まる一日つかっても、三ひく一は二ということで二日も残る。オトナは子どものために時間を使っても、人生にこれだけの余裕があるのである。

（三八歳の誕生日に）　（知）


**好評**

**岡　知史氏のエッセイ集**

- **ほんの少しの神に近い部分**
- **知らされない愛について**

頒価＝七〇〇円
問い合わせ先＝TEL06・六九一・一〇二八（富田）


# 知的障害のある人の支援体制づくり６

阿部幸恵

このコーナーも折り返し地点にきました。知的障害のある本人の新しい団体の紹介から始まり、本人の自立を援助する新しい支援観や国外の支援制度について、述べてきました。新しい言葉や制度のことなど、少しかための話が続き、少々読みにくかったことと思います。

今回からは、国内の新しい動きについて、紹介していきます。

## ◆二、国内の様子　～それぞれの取り組み◆

### （一）ピープルファースト　はなし合おう会

**行政に声をあげる！**

一番はじめに、ピープルファーストのことを紹介しました。欧米を中心に盛んに活動している、知的障害のある本人の団体です。「自分の権利は自分で守る」「自分の権利は自分で主張する」ということを原点に活動しています。

このピープルファーストを日本でもつくろうと、日本各地で奮闘が繰り広げられています。「ピープルファーストはなし合おう会」は、その東京版。昨年十二月に、結成されました。

一九九三年に、カナダのトロントで開かれたピープルファーストの国際会議に参加してから、年に数回のペースで東京、静岡、大阪と場所を変えて、全国的な会合は重ねていました。会結成の発端とな

ったのは、昨年の東京都との行政交渉「東京ではなし合おう会」の準備からでした。

「東京ではなし合おう会」は、一九九五年十一月二十二・二十三日に行われました。一日目は交流会、二日目は都庁を会場に、分科会・東京都との交渉がありました。

その前の年に、大阪でも同じく交渉がもたれ、「次は東京で」と計画されたのでした。前の年の大阪のときと同じく、全国から多数の応援が駆けつけました。

準備期間は二ヶ月。はじめは、隔週毎に準備会を開くペースで進められていきました。そして、本番。本人による司会がとりまとめる中、以下のような質問・要望が発表されました。

一、何かを決めるときは、私たちに聴いて下さい。親や職員とだけで決めないでほしい。
二、働ける場所がほしい。
三、アパートや生活寮（グループホーム）で暮らしたい。
四、困ったときだけ、助けてほしい。自分でやれることは構わないでほしい。
五、自分で選べる援助者がほしい。
六、都営住宅に住めるようにしてほしい。（知的）障害者が、一人で住んではいけないと言われた。
七、普通学校と養護学校を分けないでほしい。
八、「精神薄弱」という言葉は使わないで欲しい。「知的発達障害（痴呆性高齢者と区別するための用語）」もいやだ。
九、作業所の給料をもっと増やしてほしい。
一〇、一つの作業所に籍をおいたまま、他の作業所に通えないか。
一一、地域の障害者の青年学級をどう受け取っているか。
一二、障害があるというだけで、マイナスにしか見られない。
一三、電車等の料金を安くしてほしい。
一四、これからもこのような会を持ってほしい。

＊詳しくは、報告集「もっともっとピープルファースト」ピープルファーストはなし合おう会．１９９６．
（連絡先　〇四二五‐九四‐三八二四）

この第一回目を受けて、第二回目が今年の七月に行われました。今度は、全国ではなく都内の団体に呼びかけ、本番前に交渉内容の検討を行いました。また、どのようにしたら効果的な話し合いになるかも話し合いました。

第一回目に加えて、「『愛の手帳（療育手帳）』の中身を分かりやすくしてほしい。名前を変えほしい（『愛』という言葉は哀れみを受けているようでいやだ）」「いろんなことを分かりやすくしてほしい（市役所・駅等で）」という要望が挙げられました。

## サロンの絵葉書

「花だより」と「出会いの風景」の二種類あります。ちょっとした近況、お知らせや季節のごあいさつなどにどうぞ。一セット五枚組￥一五〇ー

都からの回答はともかくとして、この交渉の大きな成果は、自分たちの声をあげていくことにより、ひとり一人が大きな自信を持つことにつながったということです。はじめは、メンバーの前でさえ、自分の意見を述べにくかった人が、会議の司会を務め、現在は、施設を出て一人暮らしをしたいと動き始めています。

ピープルファーストは、単なるレクリエーションをするサークルとは異なります。

「ピープルファーストはなし合おう会」では、その他に、アメリカのピープルファーストのリーダーを招いて、ワークショップを企画したり、他団体との交流・啓蒙活動や、最近では講演にも出向きます。また、今年、自らの手で事務所を設立し、より本格的な活動が繰り広げられるようになりました。

メンバーは、入所施設の人、作業所に通う人、生活寮で暮らす人、施設を出て自活している人、就労している人と、それぞれの生活背景を持っていますが、「ピープルファースト」という共通の柱を、それぞれが持っているようです。

# 美智子のこんな話

岸田　美智子

## 介護は権利なのか恩恵なのか

なかなか進まないホームヘルパー制度が最近、利用者の老人から訴えられているそうです。現在、大阪市のホームヘルパー制度は一週間に二〜三回で、一回につき二〜三時間程度で、最近やっと入浴介護が実施されるようになったというのが現状です。

このような現状では二四時間介護が必要な老人や障害者は地域では生活していけません。もし地域で生活しようとすると家族など犠牲に甘えるしかないのではないでしょうか？

このような現実を明らかにしながら、法廷の場でアピールしていこうという動きがこの新聞記事の裁判問題です。

なかなかよくわからないホームヘルパー制度ですが、在宅の老人問題をうけて巡回型の二四時間のホームヘルパー制度がやっと実施されるそうです。でも、この巡回型は一回三〇分以内でおしめ交換や体位交換ぐらいしか考えられておらず、不十分で地域でその人らしい生活を支えられる内容ではないようです。

この新聞記事のような権利としての介護保障をもっともっと追求していってほしいものです。皆さんもこの新聞を読んでみて下さい。

---

ホームヘルパーの派遣をめぐる訴訟が、大阪地裁で争われている。訴状によると、大阪市が決めた派遣の内容は「介護に不十分で憲法に保障された生存権の侵害」だ

という。福祉サービスが行政による恩恵なのか、憲法上の国民の権利なのかが、法廷で議論されるのは初めて。八八歳の寝たきりの女性がなぜ市を訴えねばならなかったのか。介護なしでは生きられない原告の生活とヘルパー派遣制度の現状を追跡した。

女性が週二回のヘルパー派遣サービスを受け始めたのは九年前。

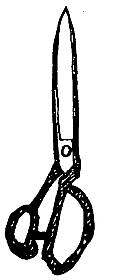
足腰が弱ってからだった。一九九三年五月、大たい骨を骨折して二ヵ月間入院、派遣が停止された。退院後もそのままで、息子が退職し介護に専念していたが、体調をこわし「社会福祉・社会保障一一〇番」に電話。弁護士から福祉事務所長に派遣廃止決定への異議申し立て、同年十月から再開された。しかし、二四時間介護で息子の体調がより悪化、家事ヘルパーでなく介護ヘルパー派遣を口頭で福祉事務所に申し入れたが拒否された。

それに対して「週三日、一回二時間」の解答。二四時間サービスをする自治体がある一方、大半の自治体では夜間や休日のサービスがなく、週一、二回程度。

「介護地獄といわれる高齢者の現状は人権侵害。裁判を通して国民の議論を巻き起こしたい」というのが弁護団の狙いだ。

（野間　裕子）

○平成八年七月二五日付讀賣新聞記事より抜粋



## お知らせ

＜サロン・あべの＞十月の出会い

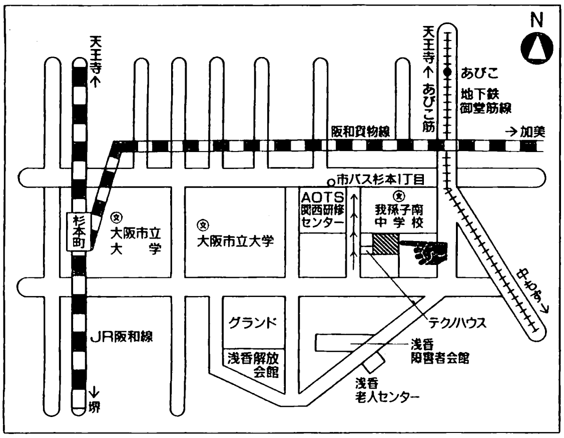
日　時　平成八年十月十九日（土）
　　午後一時（現地集合）～四時

場　所　住吉区在宅サービスセンター
　〒五五八大阪市住吉区浅香一－八－四七
　TEL〇六－六〇七－八一八一
　交通
・ＪＲ阪和線杉本町駅東へ徒歩十分
・地下鉄あびこ駅（４番出口）南へ徒歩十分
・市バス（幹線63・特４）杉本一丁目停留所南へ徒歩三分

内　容「住吉区いきいきセンター」と「ウェルフェアテクノハウス大阪」の見学

会　費　なし

＊参加人数を確認したいと思いますので、必ず、事前にお申し込みください。
お申し込み・お問い合わせ先
TEL〇六－六九一－一〇二八（冨田慶子）



第三種郵便物認可ＫＳＫＱ（サロン・あべの）通巻１７７１号１９９７年　1月28日

## サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」

○サロン淀川１０月の出会い

日　時‥平成8年１０月２０日（日）
　　午後1時３０分～４時

場　所‥淀川区在宅ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ「やすらぎ」
　　[大阪市淀川区三国本町2-14-3]

テーマ‥「食事と健康」

パネラー‥栄養士　吉　田　美智子氏

会　費‥な　し

問い合わせ先‥
　淀川区社協ボランティア・ビューロー
　　☎06-３９４－２９００

■「サロンつるみ」

○サロンつるみ１０月の出会い

日　時‥平成8年１０月１３日(日)
　　午後1時３０分～４時

場　所‥大阪市立鶴見会館
　　[鶴見区横堤５－５－５１]

テーマ‥「幼児教育と腹話術の魅力について」

ゲスト‥境　イツ子さん

会　費‥無料

問い合わせ先‥鶴見区社協ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・ﾋﾞｭｰﾛｰ、TEL06-913-7070・FAX06-913-7676(担当=藤井・山本)

■《てくてく・すみよし》

○てくてく・すみよし１０月の出会い

日　時‥平成8年１０月１３日(日)
　　集合午前8時４０分
　　ＪＲ阪和線あびこ町駅

場　所‥大阪市信太山青少年野外ｷｬﾝﾌﾟ場

内　容‥ハイキングと飯ごう炊さん

参加費‥１０００円

定　員‥４０名

連絡先‥TEL・FAX06-692-8411(山本篤江)

## 《てくてく・すみよし》歩き出しました

土井　俊次

今、私は雨の日も風の日も毎日外に出れるようになりましたが、以前の自分の生活を考えるとまるで夢のようです。

来る日も来る日も、「外に出ていきたいなあ～」と思いながら窓から空を眺めていました。きっと、私と同じ思いで、こんな暮らしを味わっている方も、まだ多くおられることと思います。そして、お齢をめされて足腰の弱りによって、外に出る機会を奪われている方。そんな悩みを持った皆さんに少しでも外に出る喜びや、人と人のふれあいを感じていただこうと、《てくてく・すみよし》は出発しました。

ちょっと近くの公園まで、ちょっと街までショッピング、たまにはちょっと足を延ばしてハイキング、そして、みんなで楽しく語り合い、てくてくと出かけましょう！

そんな思いを込めて《てくてく・すみよし》は、障害者も健常者もバリアのない社会をめざし、文字通りてくてくと歩み始めました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

《てくてく・すみよし》代表

パティーさんの
「自助への提言」読みました

日中はまだ暑いですが、夜は虫の音が聞こえてきます。夜の時間の流れがゆったりとしてとても好きです。

皆さん、いかがお過ごしですか。

＜サロン・あべの＞一二二号を届けていただきありがとうございました。

パティーさんの「自助への提言」、引き込まれるように読みました。慢性病の痛みを持っておられる方へのアドバイスとして書かれていますが、内容は「人間としての基本的人権」と言えるものです。

明確な表現なので身体にすっとはいるように教えてくださる文章です。パティーさんのお人柄が想像できる感じですね。

すがすがしい季節です。お元気にお過ごし下さい。

M・D

## 朗読テープのご案内

「アベノ朗読ボランティアグループ」のご協力で、＜サロン・あべの＞紙一二二号の録音テープが出来ました。バックナンバーは三九号から、一二二号の分があります。

また、＜サロン・あべの＞十周年記念誌「はあとが、はろー！」もテープ化実現の運びとなりました。九〇分テープ二本と一二〇分テープに収録されています。

五〇号は、九〇分と六〇分の二本のテープに、一〇〇号は、一二〇分テープ二本にそれぞれ収録されています。又、絵本「未知の記憶」（作・絵＝中川勝彦）、「ラジオたんぱ」（三〇分）放送の『＜サロン・あべの＞平成七年五月の出会い』もあります。

いずれもご希望の方には、ダビングをしますので、冨田までお申し出下さい。

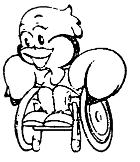
（☎〇六－六九一－一〇二八）

## 月見団子

お月見にススキや秋の草といっしょに団子、枝豆、里芋、栗、柿など供物をするようになったのは江戸時代から。名月を賞美するこの風習は東洋びと独特の風流ごころか。なにがなんでも「かるた」です。

解説書付き　かるた冊子一五〇円

第52回国民体育大会
おおさか　ふれ愛　夢づくり
**なみはや国体**



第33回全国身体障害者スポーツ大会
**ふれ愛ぴっく大阪**
ときめいて今　はばたいて未来

## FROM EDITOR 編集後記

８月４日、用があって「買う人」になれないの、だから今年は「品物提供する人」になるワ。足が痛とうて外へ出られへんさかい、テレビ観ながら応援してるよってにしっかり売りや。………。今年も多勢の人に支えられて＜さろん亭＞は盛大に閉店しました。ありがとうございました。来年また暑い８月、開店を予定しています。（石）

第三種郵便物認可ＫＳＫＱ（サロン・あべの）通巻１７７１号１９９７年　１月２８日

# ＜サロン・あべの＞十周年記念

＜サロン・あべの＞十周年記念誌

## はあとが、はろー！

頒布価　￥５００（送料別）

絵葉書

## わがまち阿倍野

●チンチン電車の走るまち
●歴史のあるまち
●まちかどスケッチ

各　￥１５０

一九九一年九月三日第三種郵便物認可（毎日発行）

編集人；サロン・あべの運営委員会・＜サロン・あべの＞Vol.123［`96. 9.21.発行］定価￥１００.
代　表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町２－１９－２－３０３　電話06-621-4365
連絡先；冨田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町６－３－２６　電話０６－６９１－１０２８
表　題；井上憲一・筆　　文中イラスト；石田美禰子
郵便振替口座；サロン・あべの　００９５０－９－２６９４１
印　刷；セルフ社〒546 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ﾐｽﾀｰDﾋﾞﾙ2F ☎06-719-8212 ℻06-719-8213

発行人；関西障害者定期刊行物協会［大阪市城東区東中浜２－１０－１３緑橋グリーンハイツ１Ｆ］